

ごあいさつ

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟
会長 安道 光二



皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素よりソフトテニス普及振興の諸事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は第16回世界選手権大会の国別対抗戦において、38年ぶりとなる男女アベック優勝を飾ることができました。個人戦においても女子ダブルスの優勝と準優勝、女子シングルス第三位、ミックスダブルス第三位という素晴らしい成績をおさめております。これもひとえに応援してくださった皆

様方のおかげであり、心より感謝申し上げます。本年はアジア選手権大会が開催され、選手たちは日頃の努力の成果を更に発揮してくれることでしょう。皆様のご声援が力となりますので、引き続き応援を賜りますようお願いいたします。

役員および関係者一同、日本発祥のスポーツであることの誇りを胸に、競技性の高いスポーツとして、そして老若男女に愛される国民的スポーツとしても更なる発展を遂げるべく力を尽くしていく所存です。スポーツを通してマナーとフェアプレイ精神を培い、青少年の健全育成に寄与できるよう事業を推進してまいります。

今後も皆様からのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

2020年 ナショナルチーム

男子

船水 颯人	東京都	ヨネックス
上松 俊貴	日本学連	早稲田大学
長尾 景陽	日本学連	早稲田大学
松本 倫旺	日本学連	早稲田大学
中本 圭哉	福井県	福井県庁
鈴木 琢巳	福井県	福井県庁
内本 隆文	日本学連	早稲田大学
内田 理久	日本学連	早稲田大学
安藤 優作	東京都	東京ガス
安藤 圭祐	愛知県	東邦ガス
丸中 大明	広島県	NTT西日本
長江 光一	広島県	NTT西日本
船水 雄太	広島県	NTT西日本
広岡 宙	広島県	NTT西日本
林田 和樹	東京都	ヨネックス
上岡 俊介	日本学連	同志社大学
増田 健人	和歌山県	和歌山県庁
九島 一馬	大阪府	ミズノ

女子

林田 リコ	日本学連	東京女子体育大学
志牟田 智美	兵庫県	東芝姫路
泉谷 朋香	兵庫県	東芝姫路
芝崎 百香	東京都	ナガセケンコー
高橋 乃綾	広島県	どんぐり北広島
黒木 瑠璃華	東京都	ヨネックス
半谷 美咲	広島県	どんぐり北広島
尾上 胡桃	東京都	日体桜友会
徳川 愛実	東京都	ヨネックス
石井 友梨	京都府	ワタキューセイモア
笠井 佑樹	日本学連	日本体育大学
大槻 麗	福島県	ダンロップ
島津 佳那	日本学連	東京女子体育大学
那須 曉帆	愛知県	アドマテックス
片野 理音	日本学連	東京女子体育大学
早川 日向	東京都	ナガセケンコー
久保 晴華	日本学連	日本体育大学
黒田 奈穂子	日本学連	日本体育大学

2020年 全日本U-20チーム

男子

林 湧太郎	広島県	NTT西日本
阪本 峻	日本学連	関西大学
大友 駿	愛知県	東邦ガス
北本 達己	日本学連	明治大学
山根 稔平	日本学連	早稲田大学
福田 成海	日本学連	法政大学
水木 瑠	日本学連	早稲田大学
増田 祐太	日本学連	関西大学
高倉 和毅	日本学連	早稲田大学
草野 湧	日本学連	中央大学
荒木 駿	山形県	羽黒高校
高城 直弥	群馬県	前橋商業高校
石川 峻伍	香川県	尽誠学園高校
白川 雄己	香川県	尽誠学園高校
池口 季将	奈良県	高田商業高校
山本 大陸	奈良県	高田商業高校

女子

小林 愛美	日本学連	東京女子体育大学
小松 芹奈	日本学連	東京女子体育大学
中別府 瑞希	日本学連	関西大学
浪岡 菜々美	三重県	三重高校
宮下 こころ	日本学連	明治大学
木原 恵菜	奈良県	高田商業高校
長谷川 憂華	岡山県	山陽女子高校
赤川 友里奈	埼玉県	埼玉平成高校
武藤 和果奈	京都府	京都光華高校
下地 真未	日本学連	四国大学
竹松 和加葉	香川県	尽誠学園高校
箱崎 愁里	広島県	清水ヶ丘高校
鈴木 理奈	東京都	文大杉並高校
吉田 澤奈	日本学連	東京女子体育大学
白崎 ひかる	東京都	文大杉並高校
水澤 奈央	新潟県	北越高校
土井 あんず	日本学連	立教大学
森本 彩鼓	日本学連	立教大学
加奈 乃佳	鹿児島県	城山観光
小松崎 茉代	東京都	文大杉並高校

2020年 全日本U-17チーム

男子

矢野 颯人	奈良県	高田商業高校
松本 隼	石川県	能登高校
金山 勇波	茨城県	霞ヶ浦高校
遠藤 陸斗	千葉県	木更津総合高校
永江 孝二郎	奈良県	高田商業高校
黒須 柁暉	茨城県	霞ヶ浦高校
四位 光太	香川県	尽誠学園高校
桑山 信	奈良県	高田商業高校
高田 翼	富山県	高岡商業高校
天野 航成	山梨県	甲府南高校
友田 速斗	岡山県	岡山理科大学附属高校
寺本 隼	石川県	能登高校
幡谷 康平	奈良県	高田商業高校
米川 結翔	香川県	尽誠学園高校
野口 快	埼玉県	芝東中学校
大辻 伸彬	香川県	尽誠学園高校
黒坂 卓矢	埼玉県	芝東中学校

女子

青松 淑佳	大阪府	昇陽高校
奥田 妃奈	岡山県	就実高校
松岡 琴美	岡山県	山陽女子中学校
田中 瑠奈	東京都	文大杉並高校
大友 紅実	三重県	三重高校
畑中 望来	和歌山県	印南中学校
日高 里歩	千葉県	昭和学院高校
左近 知美	東京都	文大杉並高校
庄司 琴里	東京都	文大杉並高校
天間 美嘉	青森県	東北中学校
根岸 楓英奈	大阪府	昇陽高校
浅見 今日子	広島県	広島修道大学ひろしま協創高校
高嶺 心萌	沖縄県	八重山高校
久保 田茜	東京都	文大杉並高校
鈴木 叶	千葉県	昭和学院中学校
濱島 怜奈	広島県	広島修道大学ひろしま協創高校
岩倉 彩佳	大分県	明豊高校
生井 日向子	和歌山県	和歌山信愛高校
岩元 望美	奈良県	宇陀市立榛原中学校
岩元 愛美	奈良県	宇陀市立榛原中学校

2020年 全日本U-14チーム

男子

國松 樹人	新潟県	小千谷市立千田中学校
木村 颯	山口県	下松市立久保中学校
保住 弥英	福島県	二本松市立二本松第二中学校
清水 駿	大阪府	上宮中学校
安達 宣	東京都	清明学園中学校
塚本 星弥	愛知県	豊田市立朝日丘中学校
野本 凌生	群馬県	高崎市立並榎中学校
島尾 一吹	徳島県	市場中学校
谷口 健斗	茨城県	水戸市立第四中学校
長根 慎人	岩手県	洋野町立中野中学校
宮下 怜来	石川県	中能登町立中能登中学校
木内 陸人	大阪府	上宮中学校
浅見 竣一朗	埼玉県	秩父市立秩父第一中学校
吉岡 莉玖	徳島県	鷲敷中学校
山道 悠生	石川県	中能登町立中能登中学校
井戸 川惺	宮崎県	吾田中学校
根岸 滯紋	埼玉県	秩父市立秩父第一中学校
小泉 瑠唯	埼玉県	秩父市立秩父第一中学校
植田 璃音	東京都	高畑ジュニア
結城 純平	東京都	祐南ジュニア

女子

杉本 希	埼玉県	杉戸町立広島中学校
佐藤 心美	群馬県	前橋市立桂萱中学校
松端 さくら	香川県	善通寺市東中学校
向畑 奈々未	大阪府	昇陽中学校
川島 莉乃	岡山県	山陽女子中学校
藤井 優羽	愛知県	東海市立加木屋中学校
柴田 凜	岡山県	就実中学校
桑木 愛花	栃木県	芳賀町立芳賀中学校
近藤 明日咲	香川県	善通寺市東中学校
浦山 皐	富山県	射水市立小杉中学校
中谷 さくら	兵庫県	加古川市立浜の宮中学校
田畑 蘭	静岡県	浜松市立浜北北部中学校
石田 蓮	埼玉県	川口市立芝東中学校
根岸 雛乃	埼玉県	小川町立西中学校
田中 栞	栃木県	芳賀町立芳賀中学校
服部 天音	群馬県	前橋市立桂萱中学校
宮前 希帆	福井県	桑中学校
近坂 優衣	和歌山県	L. C. C
前川 愛生	兵庫県	明石ジュニア
中谷 ももこ	兵庫県	明石ジュニア

小学生・中学生・高校生を指導されている指導者の方々に対するアンケート

目的

日本ソフトテニス連盟医科学委員会として高校生を指導されている指導者の方々にトレーニングやコンディショニング、練習状況における時間的、環境的な観点から選手育成を考えた練習内容の整備、提案を踏まえて現状の調査(アンケート)を実施させていただきました。結果を一部お伝えします。

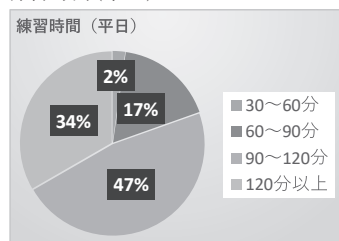
高校生指導者 有効回答数[227件]

チームの性別	指導者の性別	指導者の年代
男 113	男 193	20代～ 57 30代～ 72 40代～ 47
女 102	女 32	50代～ 44 60代～ 4

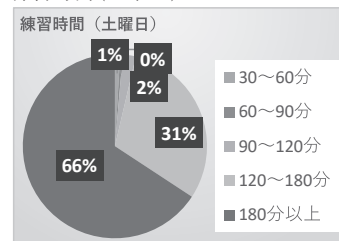
①練習時間に関する調査

練習時間(平日)

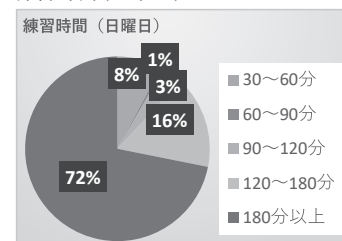
225



練習時間(土曜日)

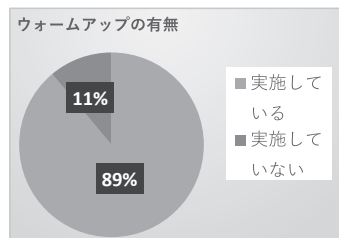


練習時間(日曜日)

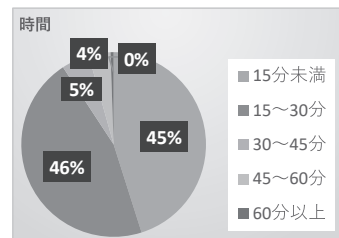


②ウォーミングアップに関する調査

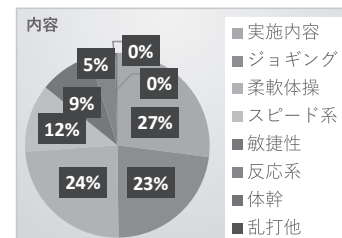
実施の有無



時間

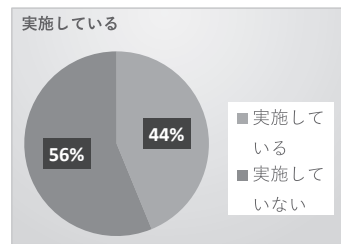


実施内容

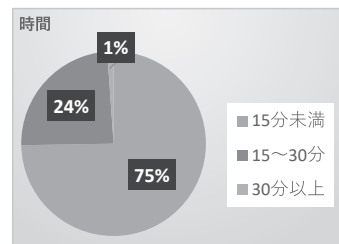


③ クーリングダウンに関する調査

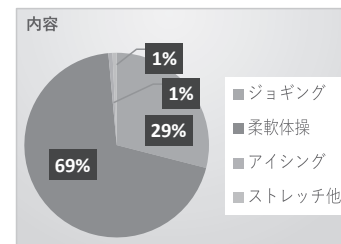
実施の有無



時間



実施内容



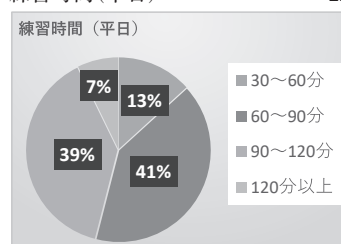
小学生・中学生指導者 有効回答数[417件]

チームの性別		指導者の性別		指導者の年代		
男	182	男	348	20代～	123	30代～ 133
女	191	女	74	40代～	75	50代～ 74
				60代～	20	

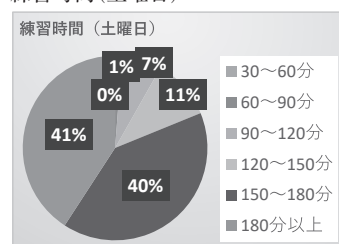
① 練習時間に関する調査

練習時間(平日)

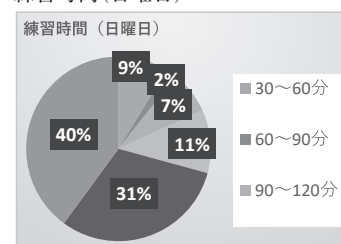
225



練習時間(土曜日)

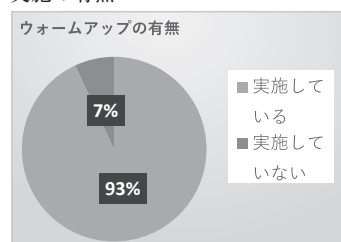


練習時間(日曜日)

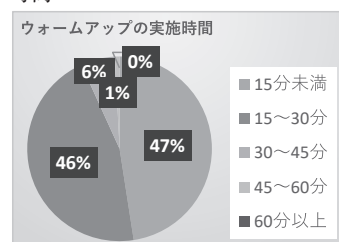


② ウォーミングアップに関する調査

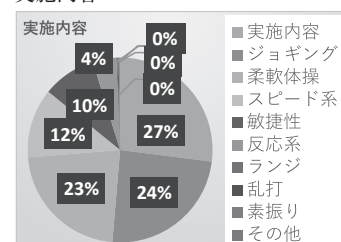
実施の有無



時間

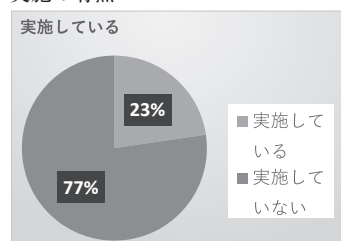


実施内容

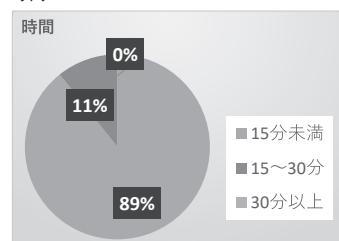


③ クーリングダウンに関する調査

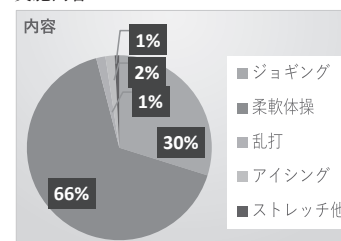
実施の有無



時間



実施内容



令和2(2020)年度事業計画(2020年4月1日～2021年3月31日)

ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的として、「ソフトテニスの普及振興事業」「ソフトテニスの競技力向上事業」「ソフトテニスの国際振興事業」の3つの柱の基で、定款に定められた事業を推進していく。

1. ソフトテニスの普及振興事業

競技人口増加に向けた対策として、今まで以上にソフトテニスの魅力を積極的に発信し、ソフトテニスをより多くの皆さんに理解してもらえるように広報活動の推進を図るとともに、生涯スポーツ推進に向け、シニア層がより楽しめる事業を計画し、推進することを重点として事業を展開する。

1. 大会開催および運営に関する事項

- (1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施する。
- (2) 大会の適正化検討と大会運営の改善を図る。
- (3) 各加盟団体での円滑な競技運営のための研修事業を実施する。

2. 地域大会の支援

地域等における競技会開催の支援として補助金を交付する。

3. 加盟団体への支援

- (1) 地域クラブ、ジュニアクラブ等への育成および運営支援のための会員登録料還元を実施する。(会員登録料より、一般20%、大学20%、高校生10%、高専10%、中学生20%、小学生50%の率で助成する)
- (2) 各加盟団体事業を推進するための支援として補助金を交付する。
 - ・小学生大会への補助(47支部×@30,000円)
 - ・中学生大会への補助(47支部×@30,000円)
 - ・ソフトテニス週間の実施と補助(47支部×@100,000円)
 - ・ソフトテニス愛好者増加対策事業への補助(47支部×@150,000円)
 - ・ナショナルチーム選手を派遣し、地域のソフトテニス振興と競技力向上への補助。

4. 広報活動の推進

- (1) 天皇賜杯皇后賜杯全日本選手権大会のNHK放映やオンデマンド放送等を実施する。
- (2) SNS等を活用したより即時性の高い情報発信の推進を図る。
- (3) 機関誌および会員報、ホームページでの情報掲載の推進を図る。

5. 各種資格等の制度推進と認定
 - (1) 技術等級および指導等級制度、審判員制度に基づいた資格認定を行う。
 - (2) (公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度で定められた有資格指導者の増加に努める。
6. 各種表彰、顕彰事業を実施

各種表彰を表彰基準により行う。必要に応じて規程・基準の見直しを行う。
7. 用具・用品・施設の公認

愛好者・競技者が安全で快適にプレーができるよう、適切な用具・用品・施設の使用を推進する。
8. 傷害補償制度

会員登録者に対し、傷害補償制度による支援を推進する。
9. 競技人口の増加対策

これまで課題としてきたジュニア層だけでなく、シニア層の愛好者が参加できる事業等を実施し、競技人口増加に繋げる。
10. 医科学研究事業を行う

健康増進のため、また安全に競技するための医科学的・学術的な貢献をする。
11. アンチ・ドーピング活動の推進

健全なソフトテニス競技者育成のため、アンチ・ドーピング活動の教育・啓発活動を行う。
12. 加盟団体会長会議の開催

加盟団体会長会議を開催し、ソフトテニスを取り巻く諸課題に関する情報交換、意見交換を行い、ソフトテニス振興策を検討する。

II. ソフトテニスの競技力向上事業

2020年開催のアジアソフトテニス選手権大会でアジアNo1を目指すための活動を中心とした強化事業を推進する。あわせて、将来の日本を代表する選手の発掘育成のための競技者育成プログラムの推進、選手育成に不可欠な指導者育成に関する事業を実施する。

1. 競技力向上のため、下記事業を推進する。
 - (1) 競技者育成プログラムの推進
 - (2) 強化合宿の実施
 - (3) 国際大会等、海外への選手等の派遣
 - (4) 強化スタッフの大会視察派遣
 - (5) アンチ・ドーピング教育の推進
 - (6) 情報収集および分析結果の活用
 - (7) 医科学研究の活用
2. ソフトテニスの指導者育成

指導者の資質および指導力の向上を図り、指導者の活動促進と指導体制の確立を図る事を目的に事業を行う。

 - (1) 指導者養成事業として、「コーチ2」および「コーチ3」養成事業を実施。
 - (2) 全国小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会の実施。

III. ソフトテニスの国際振興事業

- (1) ソフトテニスの海外での普及・推進のため、指導者の派遣、選手交流、国際連盟(ISTF)やアジア連盟(ASTF)と連携した関連事業を推進する。
- (2) 海外でのソフトテニス普及を進めるための用具用品等の支援を行う。
- (3) 国際親善事業を実施する加盟団体への補助や、海外で開催される大会に参加する選手に対する補助の実施。

〔各事業を推進するための組織と財政の強化、共通施策〕

3つの柱に位置付けた各事業を推進するためには、組織と財政基盤の強化、組織の健全運営が必要となる。共通施策として、下記事業を実施する。

1. 青少年の健全育成および環境への取り組み
 - (1) スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進

スポーツ活動を通して自己責任及びフェアプレイの精神を身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育てる青少年の健全育成に取り組む。
 - (2) 環境問題への取組

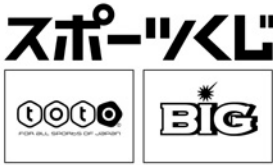
「環境宣言『来た時よりも美しく』 フェアプレイ宣言『ありがとう あなたの笑顔とそのマナー』」の横断幕の掲示やプログラムへの掲載を行い、環境とマナーの向上を図る。スポーツのできる環境を維持するため、大会会場でのゴミ問題への取り組みや、ソフトテニス活動を通じた環境保全のあり方などを検討する。
 - (3) マナー BOOKを活用し、マナー向上の推進を図る。
2. 暴力根絶の徹底
 - (1) 「公益財団法人日本スポーツ協会及び加盟団体における倫理に関するガイドライン」に従い、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の精神に則り、暴力の根絶の徹底を図る。
 - (2) 暴力の根絶徹底のため、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、各支部に設置した違反救済申立処理委員会、日本連盟に設置した違反救済審査委員会を通して相談を受け入れ、指導基本規程に従った対応をしていく。
3. スポーツ団体ガバナンスコードに基づいた組織編成の検討

適切な組織運営を行うため、スポーツ団体ガバナンスコードに沿った新たな組織編成について検討する。
4. 会員登録制度の推進

日本連盟基盤の確立と登録人口把握のため、会員登録制度を推進する。
5. 長期基本計画2017(2017年度～2021年度)の推進
 - (1) 計画を着実に推進するとともに、その状況について検証・評価を行う。
 - (2) 中期、長期に分けた次期の基本計画の骨子を作成する。

令和元年度日本スポーツ振興センター助成事業一覧

下記の事業については、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて実施いたします。

基金助成		くじ助成	
事業名	助成額(内示)	事業名	助成額(内示)
JOCジュニアオリンピックカップ大会/ 全日本ジュニア選手権	993,000	競技者育成プログラム(Step-1～Step-3)	52,962,000
天皇杯皇后杯全日本選手権	2,261,000	ドーピング検査	234,000
全国小学生・中学生・高校生指導者研修会	1,290,000	アウトリーチ	367,000
計	4,544,000	計	53,563,000
 スポーツ振興基金 独立行政法人日本スポーツ振興センター			

令和元年度日本オリンピック委員会補助事業一覧

下記の事業については、公益財団法人日本オリンピック委員会の補助を受けて実施いたします。

事業名	補助額(内示)
選手強化事業	11,550,000